

稲・麦・大豆かわら版

～麦類編(ほ場準備・適期播種)～

2025.10.3 発行
栃木県塩谷南那須農業振興事務所
経営普及部 0287-43-2318
<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g55/>

年内の栽培ポイント

- ①播種前に心土破碎と額縁明きょを設置し、排水対策を徹底しましょう！
- ②土壌診断に基づき、土づくり肥料を施用しましょう！
- ③適期播種を行い、年内3～4.5葉程度確保して、麦踏みを実施しましょう！

1 排水対策＜心土破碎&額縁明きょの設置＞



(左) 排水対策なし

(右) プラソイラ+明きょ

＜排水対策のポイント＞

○プラソイラ等による心土破碎

→浸透排水性の改善

○ほ場周囲の排水溝（額縁明きょ）の設置

→地表水の早期排水

※排水溝は排水路につなげておく

2 土づくり

- ①土壌が酸性化すると収量に大きく影響する。播種前にpH6.5～7.0を目標に、苦土炭カルや苦土消石灰を施用する。
※標準施用量：苦土炭カル 60～100kg/10a
- ②良質堆肥きゅう肥の施用は、地力向上・微量元素の供給に加え、通気性・保水性の改善、地温上昇の効果が期待できる。
※目安施用量：牛ふん堆肥 1,000kg/10a
- ③目標作土深は20cmとし、数年かけて徐々に目標の作土深とする。
- ④畑地の連作ほ場はマンガン欠乏による生育不良が散見される。対策として、硫酸マンガン₂を10kg/10a程度施用すると改善する。

3 適期播種＜年内3～4.5葉(積算温度300～450℃)を確保＞

○矢板市・塩谷町・那珂川町 : 11/1～11/15

○高根沢町・さくら市・那須烏山市 : 11/6～11/20

○倒伏防止のため、播種深度は2～3cmとし、極端な浅播きは避ける。

○適期より播種が遅れると…

①凍上害や倒伏が発生しやすい、②分げつ数が少ない、③出穂期・成熟期が遅れ、登熟日数が短くなるため整粒歩合が低くなる、④タンパク質含有率が増加する、⑤成熟期の降雨により品質が低下する等の影響がある。

【暖冬の場合】生育促進 → 春先に凍霜害 → 二段穂発生で品質低下

【厳冬の場合】生育遅れ → 茎数不足&収穫期降雨 → 収量・品質低下

⇒被害軽減のため、年内に3～4.5葉期程度を確保し、根張りを十分にさせることが重要！

○適期より播種が早まると…

①春先の凍霜害を受けやすい、②被害粒が発生しやすい等の影響があるため、上記期間内に播種を行う。

4 麦踏み<年内1回、年明け～茎立期直前までに2回>

- 年内1回+年明け～茎立期直前までに2回の計3回以上麦踏みを行う。
- 穂揃いを良くするため、必ず茎立期直前に麦踏みを行う。
- 作業は土壌表面が乾いている（靴の裏に土がつかない程度）のときに実施する。

他にも①分げつ増加、②根張りを良くする、③茎葉汁液濃度を高めて耐寒性を増大させる、④凍上害の防止、⑤暖冬年での茎立ちの早期化を抑え、春先の低温による幼穂凍死を回避するなどの効果があるまるよ！



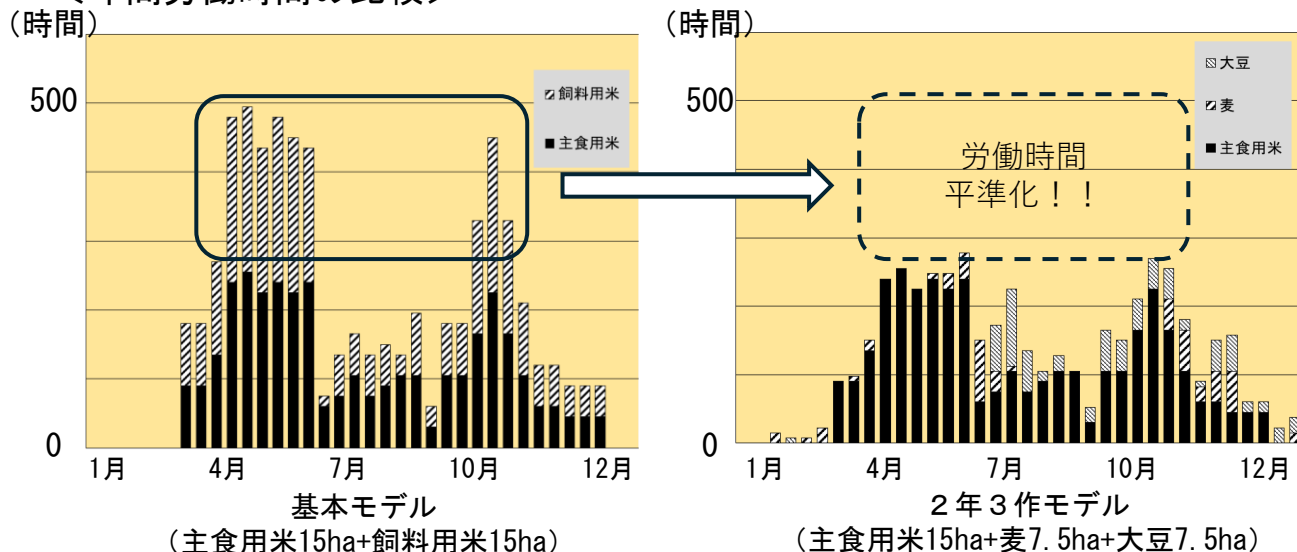
5 推奨作付け体系

水稻・麦・大豆を組み合わせた2年3作の輪作体系を取り入れ、労働時間の平準化を行い、経営改善を図りましょう！

【栽培スケジュール（2年3作）】 ※麦・大豆作付けほ場

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1年目		(ほ場準備)			水稻(主食用米)					(ほ場準備)		麦
2年目	麦					(ほ場準備)	大豆					(ほ場準備)

<年間労働時間の比較>



9月～11月は「秋の農作業安全確認運動」の実施期間です。



高齢農業者の事故が多発しています！以下のことを心がけましょう。

- ・こまめな休息や健康診断の受診等、疲労回復と健康管理の徹底
- ・歩行型トラクターでのバックの際は、必ず後方と足元の安全確認を
- ・複数人での作業を基本とし、一人での作業の場合は携帯電話を持つ